

## 西側メディア - 人道に対する罪の共犯

イスラエルによるガザへの継続的な攻撃は、西側メディアによってしばしば「戦争」と表現されています。この言葉遣いは誤解を招くだけでなく、道徳的かつ法的に誤っています。戦争とは、2つの主権国家間の紛争を意味します。しかし、ガザは国家ではありません。それは軍事占領と包囲下にある人口密集地帯で、陸軍、海軍、空軍を持っていません。国際法、特にジュネーブ条約の追加議定書Iの第1条(4)に基づき、占領下に暮らす人々には**抵抗する権利**があります。イスラエルが行っているのは戦争ではなく、**民間人に対する軍事作戦**であり、これは人道法の原則を根本的に侵害する行為です。

### 大規模な失踪：沈黙させられた恐怖

ガザの破壊は壊滅的なレベルに達しています。**ハーバード大学の研究**によると、最近、**37万7千人以上のパレスチナ人が行方不明**となっており、これは公式な死者数62,000人の**6倍以上**に上ります。イスラエルがすべての国境を支配している**ラファ**や**地中海**も含めて一人々が逃げる場所はありません。これらの行方不明者は、家屋の瓦礫の下に埋もれて死んでいるものと推定されます。それにもかかわらず、主要な西側メディアは、この破壊の規模を過小報道するか、**完全に無視**し、「精密攻撃」や「付随的被害」といった無害化された物語を強調することを選んで

### 沈黙と中傷のネットワーク

イスラエルの行動は、**広範な国際的なロビー活動とメディア影響力のネットワーク**によって支えられています。世界中で何千もの親イスラエル組織が活動し、**個人攻撃**を通じて批判を抑圧しています。反ユダヤ主義、ナチスへの同情、テロリズム支持といった非難が、声を上げるジャーナリスト、学者、人権活動家に対して日常的に向けられています。

この脅迫は、主流の西側メディアに深く根ざした有力な個人や機関によって増幅されています。**BBC**では、ラフィ・バークがイスラエルの行動を一貫して好意的に枠組みしていると指摘されています。一方、**ドイツのアクセル・シュプリンガー・メディアコングロマリット**は、違法なイスラエル入植地の不動産から利益を得ており、親イスラエルの編集方針を公然と強制しています。これらはランダムな偏見ではなく、イデオロギー的忠誠をジャーナリズムの真実よりも優先する、体系的で**制度的な同盟**を表しています。

### 責任の無効化

イスラエルのプロパガンダ装置は、国際機関も標的にしています。ジュネーブに拠点を置くNGOである**UN Watch**は、**国連**、**UNRWA**、**国際刑事裁判所 (ICC)** がイスラエルの戦争犯罪を調査しているとして反ユダヤ主義を非難することで、これらを信用失墜させる取り組みを主導

しています。これらは孤立した中傷キャンペーンではなく、**国際的な監督や正義の形を無効化**するための意図的な戦略です。

## 武器としての偽情報

デジタル空間では、**#Pallywood**や**#TheGazaYouDontSee**といったハッシュタグが、疑念を製造し、パレスチナ人の実体験を否定するために使用されています。**#Pallywood**は、パレスチナ人が負傷や死を偽っていると冷笑的に非難し、**#TheGazaYouDontSee**は、飢餓や破壊の視覚的証拠に対抗するために、相対的な正常さを示す選りすぐりの画像を展示しようとしています。これらのキャンペーンは無害ではなく、**意図的な偽情報活動**であり、グローバルな連帯を侵食し、残虐行為を正常化します。

## シュトライヒャーの先例

暴力を正常化するメディアの役割には、恐ろしい歴史的類似点があります：**ユリウス・シュトライヒャー**、ナチスの新聞**デア・シュトゥルマー**の発行人で、**ニュルンベルク裁判**で裁判にかけられ有罪判決を受けた人物です。シュトライヒャーは直接的に誰も傷つけませんでしたが、絶え間ない人種的憎悪の扇動とプロパガンダは、**人道に対する罪**の有罪判決に十分とされました。この先例は明確です：**言葉は殺すことができる**、特に集団暴力を正当化し、可能にするために使用された場合に。

## ジャーナリズムを通じた共犯

今日の西側メディアは、客観的に報道することに失敗しているだけでなく、**積極的に共犯**となって、占領された人々への集団的処罰を正当化する公的物語を形成しています。婉曲な言葉遣い、重要な事実の省略、被害者の悪魔化は、一連のミスではありません。それは、進行中の残虐行為に対する**同意を製造する体系的なプロセス**の一部です。

## 結論：責任の要求

ガザでの流血は真空状態で起こっているわけではありません—それは、抑圧を防衛として偽装し、ジェノサイドを政策として描くグローバルな情報構造によって可能になっています。西側メディアの共犯は、**倫理的だけでなく法的に精査される必要があります**。シュトライヒャーの事例は、**プロパガンダが中立的な行為ではない**ことを証明しています。それは人道に対する罪への参加の形です。世界が正義と人権に真剣であるならば、その精査を、こうした犯罪を不可視化し、受け入れ可能にし、または正当化するジャーナリスト、編集者、経営者にまで広げる必要があります。